



海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

かいほジャーナル

2014 AUTUMN Vol. 60



三陸・いわての海
海のもしもは

海のもしもは
118

釜石海上保安部
(財)海上保安協会釜石支部



JCG 海の「もしも」は118番
JAPAN COAST GUARD

岩手の海に笑顔が戻る

人・海・笑顔

[特集 釜石海上保安部]

Contents

Vol.
60

かいほジャーナル 2014 AUTUMN

PHOTO GRAVURE

- 1 新潟航空基地発足60周年
- 1 海上保安庁音楽隊サマーコンサート
- 2 太田国土交通大臣による海上保安業務視察
- 2 西之島の面積拡大 続く噴火活動
- 3 全国海難防止強調運動
- 3 子ども霞が関見学デー

特集

4 岩手の海に笑顔が戻る

人・海・笑顔

TOPICS

10 釜石エトセトラ

～特集では伝え切れなかった釜石をここで～

12 NEWS FLASH

裏表紙

INFORMATION

海上保安庁音楽隊 第21回定期演奏会
大切な命! 自分で守る～海上保安庁からのお願い～



表紙



釜石海上保安部庁舎に表示された「津波到達点」



大槌港灯台と蓬萊島





新潟航空基地発足60周年



海上保安庁第5番目の航空基地として昭和29年7月1日に発足した新潟航空基地は、平成26年7月1日で発足60周年を迎えました。

発足当時は回転翼1機の配備と基地長以下9名の職員でスタートしましたが、平成22年には機動救難士が配属され、現在は固定翼2機、回転翼2機

の配備、職員数は50名を超える規模となりました。

平成25年3月には庁舎の改修も行われ、発足当時から機体、施設、職員数も大きく変貌を遂げましたが、当時と変わらぬ精神で日本の海の安全安心を担っていきます。



海上保安庁音楽隊 サマーコンサート



平成26年7月9日、日比谷公園小音楽堂（東京都千代田区）において海上保安庁音楽隊サマーコンサートを開催しました。

当日は朝から小雨の降る状況にもかかわらず、多くの方々にお集まりいただきました。天候は開催直前になっても回復せず、雨脚が強くなってきたため

一度は中止も検討しましたが、雨の中お待ちいただいた方々への感謝と期待に応えたいという隊員一同の思いから、当日予定していたプログラムすべてを演奏することとなりました。

来場いただいた方々にはご不便をおかけしましたが、会場一体となった演奏会となりました。



太田国土交通大臣による 海上保安業務視察

平成26年7月18日、太田昭弘国土交通大臣は東京海上保安部所属の巡視艇「まつなみ」に乗船して、東京湾羽田空港沖で、巡視船艇・ヘリコプターによるテロ容疑船捕捉訓練、吊上げ救助訓練、放水訓練を視察されました。

視察後の会見で、太田大臣は「現場海上保安官の高い士気と技術力をあらためて実感でき、非常に頼もしく思っています。これからも緊張感を維持し、大いに頑張ってもらいたいと強く思いました。」と述べられました。



西之島の面積拡大 続く噴火活動

平成25年11月20日に噴火活動が確認された西之島ですが、その後も活動を続け、溶岩流などにより新たに形成された陸地の面積は東京ドームの約26倍の約1.21平方km（平成26年8月26日時点）となっていることが確認されています。

噴火口からは灰色の噴煙を噴出するとともに、2、3分毎に溶岩片を伴う爆発適噴火を繰り返しており、活動は今後も継続することが予想されます。海上保安庁では付近航行船舶の安全のため、引き続き航行警報により警戒を呼びかけていきます。



全国海難防止強調運動



うみまると大阪市消防局オリジナルキャラクター「セイバーミライ」のコラボ。
機動救難士も消防、水族館の潜水士たちと水槽の中からアピール

海上保安庁では毎年7月16日～31日までの期間、「海難ゼロへの願い」をスローガンに全国海難防止強調運動を実施しています。

船舶所有者をはじめとする海事関係者や一般国民の皆さんに海難防止について関心を深めていただ

くためにイベントなどを通して周知活動を行いました。

なかでも、大阪海上保安監部では、水族館、消防とコラボし、水族館来場者に対して「水難事故防止」や「ライフジャケットの常時着用」をアピールしました。



子ども霞が関見学デー



平成26年8月6～7日、霞が関（東京都千代田区）では各府省庁が参加したイベントプログラム、「子ども霞ヶ関見学デー」が開催されました。

これは子どもたちが親の職場を見学すること等を通して親子のふれあいを深め、広く社会を知る機会とするためにはじまった取り組みで、毎年実

施されています。

海上保安庁も中央合同庁舎3号館にブースを設置し、パネルや映像をとおして業務を知ってもらったほか、ミニ制服試着コーナーを設けることにより、海上保安庁をより身近に感じてもらいました。

岩手の海に笑顔が戻る

人

海

笑顔

元の機能を取り戻す 復興の前に復旧を

東日本大震災は、東北地方沿岸部に甚大な被害をもたらした。とりわけ海岸線が入り組んだ岩手県沿岸部では、大津波によって多数の尊い命が奪われ、高波に飲まれた街は変わり果てた姿となった。

釜石港に拠点を構える第二管区海上保安本部釜石海上保安部も、庁舎そのものが津波の被害を受けた。津波は2階天井にまで達し、庁舎は平成25年1月末に復旧したもの、この教訓を生かし1、2階部分は執務室としては利用されていない。

釜石海上保安部は岩手県唯一の海上保安部であり、担当水域は岩手県に面する南北約70海里、東西約50海里の区域となる。このうち普代村から宮古市までの沿岸区域は釜石海上保安部宮古海上保安署が担当する。なお、青森県に接する洋野町から久慈市、野田村までの1市1町1村については青森県の八戸海上保安部が管轄している。現在釜石海上保安部の



釜石海上保安部

平成23年3月11日の東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県沿岸部複雑に入り組んだ入江に想定を超える高波が押し寄せ、街を飲み込んだ復旧が進む中、瓦礫に埋もれていた風景も以前の姿に戻りつつある
待望の海開きを迎えた海岸には笑い声が響き、人々の笑顔が輝いていた

取材：文／中島敦（オンサイト）

震災後初めて海開きを迎えた大槌町の吉里吉里海岸に、海水浴客の笑い声が響く。昨年に続いてビーチバレー大会も開催され、地元を中心に8チームが参加した。

総員は陸上と船艇合わせておよそ50名。この総員には再任用4名と勤務延長1名が含まれているが、年齢別になると50代以上が全体の半数近くを占めており、残りの半数の中で実務経験豊富な30代、40代は合わせてもおおよそ4分の1に過ぎない。残る約4分の1を20代の若手が占めている。

庁舎正面の壁を仰ぎ見ると、2階の窓のさらに上方に青いボードが張られ津波到達点を示されており、改めて津波の大きさを実感させられる。またそこから視線を下に向けると壁面に黒いガムテープがマーキングされている。これは正面を走る道路が今後、盛り土される高さを示したものだ。港湾部はもろろんのこと、市内のあちこちに山のような盛り土が積まれ、そこで工事が進められている。安全な街を造り、そこに人々を呼び戻そうとしているのだ。そしてこの夏、隣の大槌町では震災後初めて地元の浜が海開きされ、砂浜に海水浴客が戻ってきた。決して早いペースではないが、人々の生活は着実に元の姿に戻りつつある。

「工事はたくさん行われています。ただし、よく震災復興という言葉が使われますが、私たちの認識は復興ではなく復旧の段階です」

震災から3年半近くの時が過ぎ工事が進められている現状を、釜石海上保安部の奥康彦部長はそう説明する。「復興というと街を興す、活性化させるという意味合いになりますが、さあ土を入れて土地

釜石海上保安部 奥康彦部長

釜石海上保安部は総勢およそ50名、「鉄と魚とラグビーの街」である釜石を拠点とする岩手県唯一の海上保安部だ。宮古海上保安署と共に岩手の海を守っている。





デザインを公募し復旧された大槌港灯台とそこに行く巡視船「きたかみ」。鎮魂と復興への思いを込めてローソクの形をしている。地元の人に「ひよっこりひよたん島」として親しまれる蓬莱島に立つ。

を高くしました、防潮堤ができました、皆さん戻ってきてくださいというほど単純な話ではない。まずは震災前の状態に街とその機能を戻すこと。ですから復興ではなく復旧なんです」

一日も早く港を元の姿に

港の安全確保は海上保安庁の重要な業務のひとつだが、震災によるダメージからの復旧に、釜石海上保安部の業務も激増した。同部で担当している航路標識69基のうち46基が被災。今年7月14日現在でこのうちの24基が復旧し、残りは22基。この残された22基のほとんどは防波堤灯台であり、津波で倒壊したものや、防波堤そのものがダメージを受け、現在でも立て直すことができない状態だという。なお、第二管区海上保安本部では復旧した灯台には「復旧灯台」のプレートを掲示している。これらの灯台を広報する際には「復光」灯台というように復興に灯台の光をかけて紹介していた。

また、湾口に設置された巨大な防波堤が崩れてしまった大船渡港と釜石港では、その復旧工事のために船舶の出入する航路の切り替えが、それぞれ6月27日と7月2日に行なわれた。同復旧工事はそれぞれ平成28年中と平成29年中の完了予定とされており、港湾としての機能を確実に回復しつつある。

このように復旧は着実に進んでいるが、港湾部の復旧工事激増を受けて、工事の保安部の業務も比例して増しており、担

当する交通課では定年に達した再任用職員に活躍してもらうなどし、人手不足を補い工事申請のニーズに応えているのが実情だ。交通課の相馬雅課長によると、震災前の平成22年の工事許可件数85件、届出件数41件に対して震災翌年の平成24年では工事許可件数221件と3倍弱。届出件数においては338件と8倍強に跳ね上がっており、その後もほぼ同様の数字で推移しているという。

「我々とすれば、とにかく早く安全に復旧してもらいたいという思いで、許可申請はなるべく速やかに処理するよう努力しています」という相馬交通課長の言葉にも、一日でも早く港を元の姿に戻したいという思いが込められている。

だが、肝心の工事も問題を抱えている。地域に数多い港に限らず、復興工事は各所で無数に行なわれているため、資材も、請け負う業者もその絶対数が足りないのだ。地元業者は既に手一杯の状態で、その結果地元を知らない、港を知らない、海を知らない全国の業者が工事に携わっている。「北海道から来た、九州から来た。人も船もそうなんです。そうなるこの地域の気象や海象を知らないがための海難も発生し始めるわけです。我々としても工事の安全対策について指導するときは、まずどこから来られた人達であるかを確認して、事故のないように手取り足取り指導するようにしています」と相馬課長は語る。

なお、交通課の業務の中で震災復興のシンボルとして象徴的なのが大槌港灯台

自身も被災しながら、再任用で業務を支える



交通課 中村哲夫航行管理官

地震が発生したときは休みで自宅がある大槌町の中心部にいましたが、車がバウンドするようなものすごい揺れでした。すぐに自宅に戻ると家内は真っ青な顔をしていました。家を確認して2~3日分の着替えをまとめて保安部に向かいましたが、釜石市内に車を停めたものの津波で動けずに朝まで野宿

夜が明けてみたら町には何にもない状態でした。それはすごい光景でした。いったん歩いて大槌町の自宅に戻ると、浸水はしていましたが建物は無事。家内も実家に避難し無事でした。

ただ、保安部に無事を連絡しようと思っても電話は繋がらないし、行こうと思っても通行止め。13日になってやっと部長や他の職員と再会できました。

保安部はブラックアウト状態でしたので、応援の巡視船に保安部機能を移し、そこで業務を行いました。まずは支援の船が入れるように航路啓開です。当然、行方不明者の救助も並行しながらですが、一刻も早く支援船を入れるために港湾関係者や市や県と連携しながらの業務が優先でした。

私は3月31日で退職でしたが、退職の辞令は派遣巡視船の船橋で部長と課長と管理課の若手という3人だけいるところで交付され、そのまま4月1日から再任用です。送別会で花束もらって、と多少はイメージしていたのですが(笑)

再任用は、私なりの復興支援という気持ちもあります。ここで長く仕事をしてきたので、ある程度のことはほとんど理解していますから、新しく配属されてくる方への引き継ぎをし、できる限りお手伝いしていこうと考えています。

あわび密漁グループを検挙

平成25年8月、八戸海上保安部、釜石海上保安部、宮古海上保安部は、岩手県下閉伊郡普代村弁天漁港においてあわび密漁者グループ9名を現行犯逮捕した(9月には共犯者1名も逮捕)。船外機付ゴムボートや潜水機も使用されており、採捕されたあわびは約166kgという大がかりな犯行だった。

合同捜査本部が設置された大捕り物だったが、やはり若手職員にとっては身の引き締まる経験となった。「きじかぜ」の若手職員からは、「陸上の研修よりも外を回って情報収集にける時間の方が各段に多いし、実際に歩いて現場を見ることで得るものが多い」、「もちろん綿密に打ち合わせしたうえですが、取りあえず自分でやってこい、そして失敗しろ、と言われてます」など、日頃から現場主義で鍛えられているという実感がひしひしと伝わってきた。



▲昆 諒平航海士補
▲鍛冶 恭兵航海士補(左)と永木 祐也機関士補(右)

海の秩序維持への取り組み

港の復旧に合わせて地元漁業者の活動も再開されつつある。元々養殖が盛んだったこの地域では現在、湾内に浮かぶ養殖施設の数も震災前のほぼ7割にまで回復した。

ただし漁業再開によって、わかめの残渣やうに殻の不法投棄、あるいは十分に成長していないあわびを違法に獲ってし

まうなどの問題も発生するようになった。釜石海上保安部では港を巡回、船からの不法投棄や打ち上げられた残渣などに目を光らせるなど、海の秩序維持に努めている。

この地域で従来から漁業者を悩ませていたのが密漁への対策だ。釜石海上保安部では昨年8月隣接する八戸海上保安部、宮古海上保安部と協力し、北海道から来た9人の密漁者を検挙した。合同捜査本部が立ち上げられての大捕り物だった。

「地元の漁業者からは、密漁者の検挙は『よくやってくれた』と手放しで感謝してくれます。反面、一部に限られるにしても残渣や殻の不法投棄などでは、仲間が検挙されるわけで嬉しいわけではない。しかし保安部としてはあくまでも地域の秩



今も残る被災の爪痕と復興への動き

東日本大震災の津波で職員40名が犠牲になった大槌町旧町役場。他の部分は既に解体されているが、本庁舎については今後も保存していくことが検討されている。一方、4月には三陸鉄道北リアス線と南リアス線が復旧し、鉄道というインフラを失っていた地元の人々にとって嬉しい知らせとなった。JR釜石線でも花巻-釜石間でSL銀河を運行し観光客を集めるなど、復興への動きとなっている。

序維持のために行っていることです。マスコミを通じて地元のために行っていることを理解してもらい、不平不満の声が上がらないようにしつつも徹底的にやっています」と奥部長。

捜査や検挙には、巡回したり、港を訪れ地元の漁協組合との関係を密に保つなど、地道な活動が結びついている。日々海に出ている漁業者達からの情報はそれだけに確度も高いものがあるからだ、こういういった業務は若手の海上保安官にとっても貴重な現場経験となると、積極的に若手保安官を現場に出している。

こういった捜査を指揮するのは警備救難課の西野正則課長だ。奥部長いわく「彼は若手を育てるには研修よりも現場に出すことが肝心。と良く口にしています」とも。実際、保安学校を卒業して1年半の若手を単独で奄美大島に出張させ、事故当事者への聞き取りを担当させたことも。「あのときは本当に若手ひとりで大丈夫かと思いましたが、『必要なことはすべて伝えてあるので大丈夫です』と。そうして若手を育成しているということが伝わってきました」と奥部長は語る。西野課長自身は「積極的に若手を現場に出すのは」どこでも同じことでしょう」と説明するが、「なかなかそこまで若手を突き放すことができず、一緒に連れまわってひとつひとつ教えていくケースが多い」と奥部長は付け加えた。

冒頭の数字に戻ってみよう。およそ50名の釜石海上保安部職員のうち、およそ4分の1を占める20代職員が、これから



PM型巡視船「きたかみ」のクルー。「きたかみ」は通常の警備救難業務以外に、管内に3基ある原発警戒に配備されることも多い。

の現場の要となっていかなければならない実情がある。保安学校を出てきた海上保安官は、日々の業務を通じて実績を重ねて自信をつけ、自ら業務をリードする海上保安官へと成長していくだろう。それは膨大な数の工事申請をこなす交通課でも、捜査に携わる警備救難課でも変わりはない。現場で積み重ねる経験は、そのまま若い保安官の成長に繋がるはずだ。

海に戻る人々の笑顔

今年4月、地元交通の要でもあった三陸鉄道が北リアス線(久慈―宮古間)、南リアス線(釜石―盛岡間)共に全線開通した。未開通のJ-R山田線についても、北リアス線と南リアス線を結ぶ宮古―釜石間を三陸鉄道に運行移管する方針が発表された。また、J-R釜石線では沿岸部復興を願う今年4月から花巻―釜石間に



大津波の中、間一髪で港を脱出 「きたかみ」 佐渡博幸航海士

3.11の地震発生時、釜石港で燃料搭載中だった巡視船「きたかみ」は大津波を警戒して緊急出港し、辛くも津波被害を免れた。押し寄せる高波に翻弄される船を操舵し続けた佐渡航海士に、改めて当時の様子をうかがった。



言えば川の流れ、滝の流れのように。我々の前にはタグボートが走ってましたが、機動力のあるタグボートですら前に進むことができず流されて戻ってきたほどです。

自分は操舵担当だったので船長に対して「舵、効きません」とばかり繰り返していました。いくら舵を切ってもまったく効かないんです。当たり前なんですけれど、川の流れの強いところで船の舵なんか効くわけがないと後から思いました。

港を出たあとは、もう釜石港には戻れない状況なので洋上で指示を待ちました。沿岸付近は瓦礫で航路を塞がれて、どこも船が入れない状態。家、船、瓦礫などが流されて、どれがどれか分からないような状態でしたが、船を見つけては人がいないかどうか確認しました。それまで、見たことのない光景でした。

地震発生時「きたかみ」は燃料搭載中でした。その時に地震が起こった。船長の判断で給油を中止し船を冲出しすることになった。通常、停泊中であればエンジンスターバイするのに約30分は掛かると思いますが、あのときは入港直後であったので、そのままエンジンを起動しました。揚錨機もマニュアルが指定するよりも早い回転数でアンカーを引き上げました。通常10分かかるところを5分で引き上げたと記憶しています。

後で保安部で撮影した映像で見るとすごい勢いで潮が引いてましたが、乗船していたせいか潮位の差は感じませんでした。ただ、大きな地震だというのは分かりました。こんな大きな地震は未だかつてないというのが共通の意識としてありました。

今はもうありませんが湾口防波堤に行く途中で大きな波が来た。映像にもありますが、湾口防波堤を超えて、灯台が隠れるような波が、大げさに

SL銀河を運行させ、多くの観光客を集めている。一方、平成2年から開催され、震災の影響で開催が途切れていた釜石トライアスロンも4年ぶりに復活開催（平成24年は水泳のみ、平成25年は水泳とランの2種目のバイアスロンとして開催）、巡視艇「きしかぜ」も沿岸で水泳競技コースの警戒を行った。平成28年の岩手国

体では、同じ釜石でトライアスロンが開催される。この先工事がいつまで続くのか、それはまだ見えない。だが粛々と復旧工事が進む中、港は着実に機能を取り戻しつつある。釜石海上保安部は、岩手の海に戻った人々の笑顔をこれからも守り続けていく。

「きたかみ」に乗る若手保安官 地域貢献へのそれぞれの思い

通信士補 福士 大輝

私は地元の出身で、山田町というところに住んでいます。震災で祖父を亡くしたこともあり、海上保安庁の一員として地域の人たちの復興の役に立てていることを誇りに感じています。学校を出て最初に配属されたのは交通課で、今年4月から「きたかみ」に乗船しています。交通課ではやはり震災関係での復旧工事とか進んでいる中で、工事許可申請書の数が震災前よりも数倍に増えています。多忙ですが、上司からも「いい経験になる」と言われました。大植の灯台のデザイン公募にも携わることができ、地域の復興に少しは貢献できたのかなと思っています。

航海士補 栗山 善徳

民間から中途採用で去年7月に九州の門司分校に入り、12月末に卒業して初日から「きたかみ」に配属になりました。35歳です。前も船の仕事でした。大きな船ではなかったのですが、震災を見まして、何か被災者の助けになることができたいと思い海上保安官の試験を受けた次第です。直接は貢献できませんが、間接的には密漁者の取り締まりなど、被災者の方々が被害を受けないように少しでも手助けになればと思っています。昨年、釜石保安部が大々的な取り締まりを実施しましたが、そういう現場に参加できたのはいい経験になりました。

航海士補 久保 建貴

去年の4月に学校を卒業し4月からこの船に乗ったので現場に出てまだ1年と経験は少ないんですけど、震災復興の工事での事件があり、その捜査に携わらせてもらいました。その工事関係者への事情聴取では、その事故で大怪我をした方が奄美大島に帰郷してしまっていたので、ひとりで出張もしました。課長とも連絡を取りながら進めましたが、なんとかひとりでやり遂げることができたというのがいちばん印象に残っています。最初は不安だらけでしたが、きちんと形にできたという意味では大きな自信になりました。



「きたかみ」の福士通信士補（後左）、栗山航海士補（後右）、そして久保航海士補（前）



釜石エトセトラ

特集では伝えきれなかった釜石をここで

● 釜石大観音



釜石港を見下ろす高台にそびえ立つ釜石大観音。釜石でも観光スポットとして各種ガイドブックに掲載されている。聞くとところによると、釜石へ入港する船舶は、この釜石大観音を目印に船を走らせているということで、船乗りたちの道標となっているようだ。

大観音の足下では、「陸中国釜石港之圖」の記念碑を見ることができる。この圖は、明治5年（1872年）に発行された“日本人のみの手による1号海図”であり、水深の単位に尋（約1.8m）を用い、当時の英

● 日本での第1号海図



国用海図の図式によって險礁・海岸線・ケバ式の山容を現在の海図と比べても遜色がない精度で描いている。釜石港が第1号海図として選ばれた要因としては、当時洋式高炉による製鉄に日本で初めて成功した釜石の他に官営製鉄所の建設計画があったこと、また、東京、函館の中間補給地点として重要名港であったことから入港する船舶の安全と利便性をはかるためだったと考えられている。

● 山田湾



釜石市の北側に位置する山田町。この山田町の特産物としてあげられるワカメ・ホタテ・牡蠣などは山田湾にて養殖されている。三陸のリアス式海河岸の各湾には多数の養殖施設が設置されているが、山田湾には特に多種多数の養殖施設が設置されている。震災当時、養殖施設は流され、海上には陸上にあった建築物などがれきが無数に存在している状態となってしまったが、漁師たちの懸命な努力により、現在では当時の7割ほどの数の養殖施設が海へと戻った。



● JR釜石線SL銀河



● 三陸鉄道



震災の被害を受け、運休していた三陸鉄道が平成26年4月6日に全線運行を再開した。震災後、一部区間での運転を行ってきたが、朝の連続ドラマの舞台として知られる北リアス線（宮古駅～久慈駅）、そして釜石を通る南リアス線（盛駅～釜石駅）双方が3年ぶりの全線開通となった。再開当時は多数のメディアに登場し、休日には観光客が多数訪れるなど、その歓迎振りがうかがえる。お座敷列車やお寿司列車などのイベント列車も運行され、そちらも人気が高いようだ。

また、JR釜石線では、東北の観光面からの復興支援や地域活性化を目的に、平成26年4月12日から花巻～釜石間で「SL銀河」の運行が開始された。もともと岩手県内で保存されていたSLが職人の手によって見事に復活した。

● 釜石の名物



ひょうたん島カレー
大槌町の蓬莱島はテレビの人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルとなった島とのいわれがあり、通称「ひょうたん島」として地元住民に親しまれている。このひょうたん島をかたどった『ひょうたん島カレー』鎌倉より復興支援するため訪れ仮設商店街に店を出すカレー店が考案、“島”を挟んで2種類のカレーが楽しめる。島と同様に地元の人をはじめ多くの人に親しまれている。

釜石ラーメン
釜石で古くから知られている釜石ラーメン。琥珀色の透き通ったスープに細い縮れ麺。釜石では古くから製鉄業が栄えており、製鉄所で働く人々を待たせず商品を提供するためにこのような細麺になったと言われている。



海産物
三陸地方は豊富な海の幸に恵まれており、今回取材した釜石でも数々の海産物を味わうことができる。採れたてだからこそ味わうことのできるものばかりだ。



NEWS FLASH



八管区 **官民合同人命救助訓練**
(7月4日 / 鳥取海上保安署)



九管区 **航空機不時着水を想定したサバイバル訓練**
(7月8、9日 / 新潟航空基地)



学校 **恒例の3海里遠泳訓練**
(7月14、15日 / 海上保安学校)



三管区 **九十九里MPS試行運用開始!**
官民一体となった海難救助訓練
(7月20日 / 銚子海上保安部)



六管区 **幼稚園児が巡視艇に体験乗船**
(5月28日 / 今治海上保安部)

三管区 **小学生による
基地見学**
(6月5日 / 羽田航空基地・
特殊救難基地)



六管区 **「海の月間」巡視艇体験航海**
(7月19日 / 高松海上保安部)



二管区 **酒田港南防波堤灯台が業務を再開**
(6月20日 / 酒田海上保安部)



二管区 **小学校全校生徒で海保の業務を見学**
(6月19日 / 釜石海上保安部)



五管区
巡視艇「ふどう」
一般公開

(7月21日 / 神戸海上保安部)

一管区
幼稚園児たちとの
海浜清掃

(6月4日 / 釧路航空基地)



八管区

ラジオで
海上保安庁をPR

(6月29日 / 福井海上保安署)



三管区

サッカースタジアムの
大型ビジョンで
「海の安全運動」PR

(7月20日～8月24日 / 茨城海上保安部)



十管区

海上安全指導員と合同パトロール

(6月7日 / 熊本海上保安部)



七管区

保育園児による海難防止強調運動

(7月16日 / 唐津海上保安部)



四管区

巡視船「あつみ」就役式

(7月6日 / 名古屋海上保安部)

八管区

海フェスタ京都
巡視船「だいせん」で体験航海

(7月26日 第八管区海上保安本部)

大学校

海上保安大学校
オープン
キャンパス開催

(7月19日 / 海上保安大学校)



INFORMATION

海上保安庁音楽隊の定期演奏会を11月8日(土)に開催します。
 入場ご希望の方は、下記要領に沿ってご応募ください。(入場には整理券(無料)が必要です。)

海上保安庁音楽隊
第21回定期演奏会

平成26年11月8日(土)
 午後1時開場 午後2時開演
 場所：ゆうぼうとホール(五反田)
 指揮：稲垣征夫(海上保安庁音楽隊技術顧問)

■演奏予定曲

行進曲「JACK TAR」
 さいたら節による幻想曲
 「アナと雪の女王」よりシンフォニックハイライト
 ほか

■お問い合わせ先：海上保安庁政策評価広報室
 ☎03-3591-6361(平日午前9時30分から午後6時まで)

※個人情報の取り扱いについて
 応募の際にご記入いただいた個人情報は、本演奏会の公募事務及び入場整理券の
 発送のみに使用いたします。


[インターネット応募]
〆切:10月6日(月)午後6時

海上保安庁ホームページよりご応募ください。
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/teien/>

[はがき応募]
〆切:10月6日(月)必着

.....申込方法 [はがき応募].....

郵便はがき裏面に代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢、応募のきっかけ及び同伴者(1名のみ)の氏名、年齢を記入のうえ、下記の記載要領でお申し込みください。

 定期演奏会 係	〒100-8976 千代田区豊が関2の1の3 海上保安庁 政策評価広報室	※必ずご記入ください。 ・郵便番号 ・住所 ・氏名(代表者) ・年齢 ・応募のきっかけ (例：ホームページ、○○新聞等) ※以下は、同伴者を希望する場合のみにご記入ください。 ・氏名(同伴者・1名) ・年齢
(おもて)		(うら)

- 応募に関する注意事項
- 応募はお一人様1通のみとさせていただきます。複数応募はご遠慮ください。
 - 記載事項に漏れがある場合には、無効となりますのでご注意ください。
 - ご応募多数の場合は抽選とし、入場整理券(全席指定)の発送を持って抽選結果の発表に代えさせていただきます。
 - 未就学児童のご来場・ご着席は、他のお客様のご迷惑となる場合がありますので、お断りいたします。
 - 本演奏会は入場無料ですが、入場整理券(全席指定)が必要です。

大切な命！自分で守る
 ~海上保安庁からのお願い~

マリレジャーを安全に楽しむために、事前に海の気象情報・安全情報を収集し、
 もしもに備えて、自己救命策3つの基本を守りましょう！

自己救命策3つの基本

1 
**海に落ちてもし沈まない
 ライフジャケットの着用**

2 
**水中でも大丈夫(防水バックの使用)
 携帯電話の携行**

3 
**海のもしもは.....
 118番の活用**